

## 令和4年度 第3回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和5年3月23日（木）午後7時から8時30分まで
- 2 開催場所 伊東市役7階特別会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員6人（欠席1人）  
市長、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）

### 4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

### 5 会議概要

- (1) 開会  
企画課長から開会

#### (2) 市長挨拶

令和4年度第3回の未来ビジョン会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。本日は、委員の皆様一人一人としっかり意見交換を行い、より実りある会議といたたく、2つのグループに分けさせていただきました。本日のテーマは、「委員の皆様の視点における伊東市の魅力とは。その魅力をどう伝えるか」です。

本市が抱える課題の1つに、人口減少がございます。今後20年間で本市の人口は、現在から3分の2になることが予想されており、この課題は都市機能の維持など多くの問題を引き起こします。伊東市のまちの将来像として「行ってみたい 住んでみたい 住んでいたい まちづくり」をコンセプトにしており、この将来像を達成することが、人口減少を解決するための方法の1つであり、その手段の1つとして地域づくりが重要であると考えています。この地域づくりのために、本市の魅力の掘り起こしやブラッシュアップ等を行い、多くの方に本市の魅力を伝える必要があります。このことから、委員の皆様が考えます本市の魅力やその魅力のブラッシュアップの方法及びその魅力の伝え方等について、意見交換をさせていただき、市政に反映してまいりたいと考えました。

私は、「未来はつくるもの」と考えています。このまちの未来を変える。変えられるのは私達であり、一人一人がこういう伊東市をつくりたいという意味を込めて、未来を描けば、本市の未来をより良く変えることができると思いますので、委員の皆様と一丸となって、この難局を乗り越えてまいりたいと考えております。ぜひ、本日も、忌憚のないご意見ををお願いします。

#### (3) 意見交換

##### 【市長】

それでは、座長として会議運営をさせていただきます。ご協力をお願いします。  
トップバッターは、A委員をお願いします。

### 【A委員】

私は移住してから25年ぐらい経ちます。ずっと伊東に住むとは思っていなかったのですが、多くの方と知り合ったりして私にとってはとても魅力的な観光地です。

今思うのは子どもを育てるに当たり、私は東京で生まれ育ったのですが、地方で子育てすることにとっても憧れがあったことから始まりましたが、地域とコミュニケーションをとりながら、行政にも支えていただきながら、本来のあるべき子育てをしたいなと思い、現実に願いが叶いました。だんだん子どもが少なくなってきた、地域と密なコミュニケーションが取れなくなってきた、効率的になってきているかもしれませんが、逆にとても寂しく、もう少し地方らしくきめ細やかな支援や生活がしたいなと、そういう子育てをしたいなと思います。

確認はしていませんが、昔、浦安などで、土地を埋め立てて住宅を建て、そこに子育て世帯を集めるために、行政から支援がありました。埋め立て地に誰も来るといけないと思っていたのですが、たくさん居住者が増えました。伊東でもそういう住宅であったり支援を手厚くして間口を広げて、これから子どもを育てる世代に周知してはどうかと思います。

現状で、子育てをしていて一番私が大変だったことが学校の選択肢がないことです。夫が東京まで通勤しているのですが、それは会社の支援があっただけのことなのですが、三島、沼津や東京に通学する際に、新幹線代を支援している自治体もあるらしいので、子どもを東京に下宿させなくても、伊東から通学できるのではないかと思います。

私達は子どもたちが育った後、多くの子どもは都内に出てしまい、残される側としては、住宅の維持、固定資産税が負担になりますが、逆に、子どもが育っていくと、コンパクトにしたいので、これから年を取って住み続けるためにも、負担が少なければいいなと思います。

### 【市長】

経験を中心にお話いただいたと思いますが、確かに浦安等の埋め立て地には、あっという間に家が建ちました。

伊東は山と海に囲まれていて、海を埋め立てることは大きなビジョンがあるので難しいですが、住宅を増やすことはできると思います。民間がかなり開発をされていて、例えば業者になるべく早く造成工事をしてもらうというような協力はしています。お金の支援になりますと、公平・公正が大事ですから難しいですが、伺った意見がどのように展開できるか検討したいと思います。

それから通学補助のお話がありましたが、静岡市も実施してまして新幹線のひかりで首都圏まで約1時間です。伊東市も検討したことがありますが、通学する本人からすると、都内に住みたいとか、学校の周辺で新しい友達と楽しく過ごしたいという希望を持っているようでしたので、そんなに希望がないだろうということがありまして、それだったら奨学金を使っただけ、伊東に戻ってきた場合は半分免除にするという形をとっていますから、それが代替になるかなと考えています。

それから子育てした後に住宅が広すぎるということは、私の家もそうですので理解でき、名案はございませんが、今リフォーム助成を実施してまして、活用していただ

ればと思います。コロナ禍になり30代や40代の方が結構移住してくれていますけども、何か支援を手厚くできることでさらに増えるかなと思っています。

移住者の小さいお子さんをお持ちの家庭に厚く支援をしているのですが、困りごととしては車がない等の移動手段がないということと、保育園に入園したいけど仕事を探すのに子どもを預けるところがないといった意見を伺います。移住される方は車を所有していない方も多と思います。公共交通については、いろいろ検討していきたいと思えますし、保育園はもう待機児童はいませんので、職場さえあれば、もしくは就職を予定しているということであれば、保育園に入ることができます。もっともっと良い環境が作れるように努力したいと思えます。ありがとうございます。次にB委員お願いします。

### 【B委員】

伊東市の魅力ですが、生まれも育ちも伊東でして、大学の間は神奈川に住んでいました。なぜ伊東に戻ってきたのかというと、地元だから安心して仕事ができることや福祉の仕事をしているので、地元だから分かっているサービスであったり、地域のつながりだったりなどを基にできることがあるのではないかと思います、戻ってきました。移住者支援を伊東で始めたり、地域包括支援センターで働いていて、地域に出向いて地域の困り事とかを聞いていく中で、移住者とながっていくことが最近増えてきました。伊東が温暖で良いから移住してきたという方が増えていて、農業をして、自分で空きスペースを使いながら、「地域の人と話せる機会が欲しいんだよね」という方もいらして、お手伝いできることをしたりします。その中で、高齢の方も障がいのある方も子どもも一体型でサービスを受けられる富山型と言われていますが、本当はそこを目指したいのですが、マンパワーなどが足りなくてできない部分もあるのですが、伊東市全体でなくても、伊豆高原であったり伊東のどこかの地域ならできるよというのを行政も絡めてきたら良いかなと思っています。

子どもが減っているという部分で、高齢者が増えて介護保険の申請も増えているけれども、福祉の担い手が少ないというのが切実な問題です。福祉の仕事や医療看護の仕事ができる移住者の支援をしてくださっているのですが、実際どこまで増えているかがわかりませんが、それでも少なくなくて、移住者だけではなくてUターンしてくれる学生や20代30代の伊東出身で戻りたいけど仕事がないという方に対しての支援も何かあった方がいいのかなと思っています。

両親が他界していて実家に住んでいるのですが、築年数が経過している分、修繕費も掛かります。さきほど市長がおっしゃっていたリフォーム助成も知っているのですが、気がつかない部分もあったり、Uターンで帰ってきた若者とかにもリフォーム助成があるから安心して伊東に戻ってきてという点と仕事先があるという点や都内で仕事をしている方への交通費の助成ができたならもっと伊東は発展するのかなと思います。若者が増えれば、子どもも増えて、学校の統廃合が進んでいる中でも、もう1度学校を分散させようということになる可能性もありますし、市長が「未来は作るもの」だっておっしゃっていたように、ステップアップしていくことで、伊東が発展すれば良いのではないかと感じています。移住者がコウノトリカフェというのを最近出店したのですが、うちの職員も何かイベントがあったら販売を手伝ってほしいと依頼されていて、そこからつながりが出来たり、草刈りをしてくれる移住者の方もいて、高齢の方が増えているか

ら、そういうことで支援をしようという方もいらっしゃるして、伊東の高齢化が進んでいるけれども、ニーズの隙間を埋めてくれる人が移住し支えてくれてうまく回っていることも耳にします。ご近所付き合いが少なくなっているからこそ、支えてくれる人がいるという伊東の魅力をもっと発信できたらすごく温かいところなんだよという発信ができるのかなと思います。昨日のテレビで適度な過疎地で適疎という造語を放送してまして、どこの自治体か忘れてしまったのですが、適度な過疎で密集していない、でもいい距離感ということを推し進めている自治体が紹介されてまして、伊東もそんなふうになれば魅力的な市になるのかなと思いました。

### 【市長】

的確なご意見だと思います。基本的には人材不足で、どの業種も困っています。例えば、大学や専門学校を卒業して地元で仕事を探すと、なかなかマッチングしません。私が市長に就任してからいろいろな業種の方に入ってもらって雇用問題対策会議を開催しておりまして、要は伊豆新聞やハローワークで求人を探す人が多いと思いますが、もうどこも人材不足でして、その中で考えたのが、医療介護を中心に戻ってきた場合に奨学金返還の助成などの支援を行いまして、何とか年間30人ぐらいの方が利用されて令和3年度末までで、67人になりました。看護師さんの利用が多いですが、やはり財源にも限りがありますので、いつまで続けられるのか分かりませんが、色々な形を模索しながら実施していきたいです。多くの業種でも利用できる制度にすることに加え、制度自体も事業所にお伝えし発信していかないとイケませんし、市外に住んでいる方には、ご家族が「こういう支援を実施しているから帰っておいで」と言わないと伝わらないと思います。その発信の仕方がとても難しいと感じています。今後どのような支援ができるのか考えていきたいと思っています。

それから農業の話をしてきましたが、結構遊休農地がありますから、今実施しているところもありますが、市とタイアップしてやればニーズがあるのではないかと考えていました。

伊東は首都圏から適度な距離にあり、自然も豊かで温泉があったり、アウトドアのレジャーもありますので、それをどうやって売り込むかは、職員にも考えてもらいながら、伊東を売り込んでいきたいなと思いました。ありがとうございました。次にC委員お願いします。

### 【C委員】

伊東市の魅力ということですが、やっぱり自然と温泉や食べ物も豊富にあるということがよく言われていると思いますが、自分も商売人なので市外の方と交流する機会が結構あります。その中で伊東っていいよねという話は聞きます。移住してきた方は、伊東の人は温かい人が多いということをよく言ってくれます。例えば、移住してきてふらっと立ち寄った居酒屋のマスターと仲良くなって、そこから常連になっちゃったっていう話も聞きましたし、他所から来た人に対してフランクに接してくれるのは、伊東市の強みなのかなと思っています。静岡県民性の話しになると東部・中部・西部で分かれるようで、東部は、中西部と比べるとおっとりしていると言われてまして、競争意欲があまりないと言われております。このことが良い方向に向かっているのではないかと思います。過疎地域ですと閉鎖的な考え方の人もいますが、伊東はそうではないとい

うところがとても良いと思っています。人と交流しないと分からないところだと思いますので、移住者と伊東市民の交流の場を設ける場を作れたら良いと思います。現にFacebookでは、移住者を集めてコミュニティーが出来上がっているようですので、そういったところと協力しても良いと思います。

交通に関しまして、移住してきて交通手段がないというのは本当に悩ましいところなのかなと思っています。都内の人は、基本的には電車移動がメインになりますので、そもそも免許証を持っている人がいないと思います。免許取得のための支援を考えても良いのかなと思っています。経営者の立場からも求人を出す際に1つの条件となりますので、雇用の側面からも取得支援があっても良いと思いました。

伊東市の良いところも情報発信していかないと当然駄目だろうなと思いますので、最近よく言われるのはZ世代と言われる若者世代に向けて情報発信をしていく。情報の媒体もYouTube以外のメディアとして、Instagram、TikTokやPinterestを使って情報発信しても面白いのかなと思います。

### 【市長】

東部の人柄はおっとりしていると思います。特に伊豆半島の方は、沼津や三島ぐらいと山を越えたこちら側に住んでいる方もなんとなく違うように感じます。古い話をすると、例えば東郷平八郎が伊東に別荘を作って住んでいまして、当時は大分不便な土地だったと思いますので、伊東に相当の魅力があるということだと思いますし、元々住んでいた方は歓迎したと思います。すごく名誉がある将軍ですので。そういう歴史がなんとなく残っていて、その居酒屋さんも仲良くなって、住んでみたらというような会話あったのではないかと思います。可能性はまだまだあると思います。

交流の場も、移住相談ツアーという事業を行っていきまして、伊東市役所に移住の相談に来てくれれば紹介ができると思いますが、どのように周知するかが重要だと思います。色々な媒体で発信して若い人に興味を持ってもらうことがまだ欠けていると感じましたので、情報発信をしていこうと思います。

免許証の補助は思い付かなかったのですが、免許制度が変わりまして、例えば、消防団は、ポンプ車を小さくしたのですが、その車が運転できないので、消防団員が免許のステップアップするときに補助をしようという計画もありましたが、あまり希望者がおらず、個人の考えですから強制はできませんので難しいと感じていますし、移住者だけに補助するのも難しいと思います。首都圏から移住する方に補助金を出していますから、そこに伊東市が上乗せして補助し、その中で免許を取得してもらうことが可能かどうか今後検討したいと思います。かなり大きな課題だと思いますので、取り組んで行きたいと思います。次にD委員をお願いします。

### 【D委員】

生まれたときから伊東に住んでいて、短大と社会人で何年か市外に出ましたが戻ってきました。今更、伊東市の魅力は一般的なものしか出てこないですし魅力の伝え方と言っても他の市町を真似すればその魅力を伝える方法なんていくらでもあると思います。じゃあ、どこを良くしたらいいのかという改善すべきところで、前回の未来ビジョン会議に参加した際に、自分の意見をママ友に伝えたところ、「伊東市は移住者には手厚いよね」と言われて、私もそう思いました。「けれど、住んでいる人には手薄いよね」と

いう厳しい答えが返ってきました。何年か前に市制60周年で、シャボテン公園とぐらんぱる公園の入場料が100円になりました。電車もバスも乗車が100円になるイベントを実施したと思いますが、ものすごく良かったです。ぐらんぱる公園に行きたいけど、住んでいる人は高くて行けない、だけど100円だったらいつでも行かせてあげられる。電車に乗る機会はほとんどないと思います。車社会ですし、伊豆急線も日本で何番目かに高いぐらいの運賃です。だから、なかなか乗れないけど100円だったら乗って、伊東駅から伊豆高原駅まで行ったり、マルシェに行こうよという話ができる。気軽に電車に乗せてあげられることもできてすごく良かったよねって話が出ました。ぐらんぱる公園は、一時期バズってものすごく若者が増えたと思いますが、地元の人はいっていませんよね。地元割みたいなものを作ってもらえれば、地元の人が行って買い物をしてお金を落とすこともできると思います。

小室山の恐竜広場も確かに子どもたちは喜びましたが、ベビーカーがない世代しか利用できず、ベビーカー世代は、あそこに行けません。「なんであんなところに作ったんだらうね」という、お母さんたちからの不評がすごかったです。それ以外に公園がないあるいは公園があっても遊具がなく、住んでいる人にとっては住みにくいと思います。実際に自分の子どもを育てて思うのは、学校の選択肢がないですし、子どもの教育に関してお金をかけていないのではないかと私はすごく思います。市長さんが競輪の黒字で学校の冷暖房を付け、GIGA構想をやったと仰っていましたが、批判に聞こえたら申し訳ございませんが、一般的な家計を預かっている主婦の感覚からすると夫がパチンコに行って勝ったお金で必要な経費には使わないですよと私は思います。黒字だからやるのではなく、必要最低限やるべきものではないのと思います。黒字の部分はもっと手厚い教育やブラッシュアップするために使うものではないのかなと思います。今あるものを良くしていくために、お金を掛けていただきたいです。

伊東市民劇場の方たちが、補助金を削られてしまったと聞きます。すごく良いので、子どもを連れて行きたいけど、子ども3人いると、3,000円掛かります。お金の計算に必ずなってしまうので、もうちょっと安くしてもらえたら行けるのと思います。住んでいる人が伊東市内で楽しめることにお金を掛けていただければ嬉しいなと思います。

伊東小学校のスクールバスが出来ますけど、スクールバスと言わなくても乗り合いタクシーや公共のバスを安くしてもらえれば嬉しいなと思います。バスは、春になると観光客で満員になりますが、地元の人に乗っていません。地元の人が利用するのはどうすればいいかというのを考えていただければ嬉しいと思います。

移住者が多いと言いますが、地域の町内会や消防に参加されているのかなと、結局地元の人で地域を回っていて、結局地元の人たちだけでは立ち行かなくなってしまう現状があると思います。地元の人が、移住者を排除するという背景もあるらしいのでなんとも言えませんが、何か移住者をもっと入りやすい仕組みができて、地域のことも支えてもらえたりできれば良いなと思います。

他には、多くの助成金を出していると思いますが、業種が限られていることが多いです。全国的には、これとこれがありますが伊東市はこれしかやっていないから助成できませんということが結構あります。そうではなくてもっと広範囲を対象にしてもらえたら嬉しいと思います。

情報を取りに行く時代ですので、私達も情報を取りに行く必要があると思っていますが、情報を取りに行ったときに、伊東市のホームページがものすごく見難いです。どこを探しても何を探しても、階層が多すぎて全然見つかりません。広報いとは分かりやすく良いですが、ホームページはどこを探してもわかりません。1回探して、閉じてしまってもう最後で見つからなくなってしまいます。そういうところも良くしてもらおうと市役所に来なくても情報を取りに行けると思います。

#### 【市長】

移住者に手厚いという声があるということは、住んでいる方は施策を評価してくれている。あるいは、施策が伝わっているということだと思います。肝心の住まわれている側に見れば、地元で冷たいよねという意見は、よくわかりました。

例えば、100円でバス等に乗車できるということについて、1回いくらで乗り放題ということを高齢者に対しては実施しているのですが、最初だけ登録するのにいくらかいただいて、後は1回100円で乗車できるようなことは、交通事業者と協力すれば可能ではあると思います。地元割という名前であれば誰でも分かりやすいですので、そのような制度を検討したいと思いました。

恐竜広場は、私も何回も行っていきますから意見はよく分かります。傾斜はありますが、スロープみたいになればベビーカーでも行けるのではないかと思います。公園が少ないことや遊具がないということは、なるべく改善するようにしていますが、追いついていないと思いますので、皆様に評価されるまで実施していきたいと思っています。

競輪の黒字を教育に充てるということについては、近年お金が掛かることばかりあって、一般会計のやり繰りだけでは出来なかったのですが、競輪事業で黒字が出ましたので、それを2億円程度充ててきました。つまりは、それは普通の予算の範囲内でやるべきことということだと思います。2億円あるなら、伊東の方だけにより良い教育をやってほしいということだと思いますので、よく理解できました。なるべく取り組んでいきたいと思っています。

現在、デマンドタクシーを赤沢で実施しているのですが、みんな遠慮してしまうのか、利用があまりありません。最初に登録をしていただくのですが、多くの要望があったのに、登録がなくて、利用もとても少なかったため、本格的に導入すべきなのかと感じています。知らない人同士が乗り合わせるということが、時代的に怖い部分があるのかなと感じていますので、さきほど仰っていましたが、公共のバスが100円になる方が利用者が多いのかなと思いました。引き続き検討したいと思っています。

#### 【企画部長】

移住者が町内会や消防団等に入っているかどうかについては、冊子で案内をしていますが、今そういう地域とのつながりが煩わしいという方も多いです。町内会に入るメリットとして、例えばゴミステーションの利用ということもありますので、市も積極的に関わっていく必要があると思っています。

## 【市長】

消防団はかなり若手の方が多く、30代や40代ぐらいになると、幹部になっているのが現状です。

また、伊東市はこの制度の中で、これしかできませんということが多くあるというのは私も認識していますので、改善できるようにしたいと思います。

ホームページは、リニューアルして、前よりは良くなったはずですが、生の声を聞くことができましたので、これからDX化を進めていく中で、より良くしていきたいと思いました。ありがとうございます。次にE委員をお願いします。

## 【E委員】

伊東市の魅力をどう伝えるかですが、やはり海や山、自然があふれていて、ありきたりなものになってしまっていると思いがちですけど、私の中では、やっぱり素敵なおとこだなと思います。出身が静岡市でして、海や山もありました。就職して、浜松に住んでいたこともありますし、県内をいろいろ見てきたのですが、伊豆はそこも雰囲気の違い独特の感じが魅力なのかなと思います。市外や県外の友人が遊びに来た時も、海沿いの道を見ると「テンションが上がるね」と言ってくれますし、私自身も車を走らせて海を見ると、素敵な景色だということを感じます。ここはやはり伊東市の押すべきポイントであり、特有な魅力なのかなと。1つ目は、自然が身近にあること、2つ目は、都内へのアクセスが良いということです。伊東市に移り住んできてから、買い物は横浜や東京に行くよという方がとても多くいるなと思いました。電車で1本で行けるし、道路も小田原から有料道路を利用したらすぐに行けます。このことは、逆に向こうから手軽に来てもらえます。この伊豆の海・山の素晴らしさ、グランイルミもこの前初めて行きましたが、とても良いなと思いました。あともう1点が、若い方はキラキラした世界に憧れて都内に出たい。通学ではなくて住みたいという気持ちはとてもわかります。私もSNS等で新しいお店やイベントの情報を得ますが、大体は都内の情報です。逆に言うと、伊東にしかないお店はやっぱり伊東にしかありません。新しいお店がないということも事実ですが、伊東にしかないお店は東京の人は食べられないということに改めて気づきました。ただ、どうしても若い世代は、新しい情報をスマホで取得するので、地元の良さをどのように伝えていくかということがテーマにもある通り、難しいということも改めて感じました。実際に、海が近くにあり、レジャーもいっぱいあり、遊びに来てもらうにもアクセスが良く、素敵な人もたくさんいます。居酒屋で食事をして、お酒を飲みながらマスターとかと話をして、色々な話をしたりする機会がありまして、色々な場面でアプローチの仕方は違うと思います。まず、住んでいる人が自分たちの町をどうしたいかという思いを知って、横の繋がりを強くしていく。市内の魅力をまずは市民や企業にお勤めの方、主婦の方等に知ってもらうということが1番大事だと思います。知るための場所やツールは大きな課題だとは思いますが、色々なお店同士で手を組んで、商店街同士が手を組んで、民と民では限界があるよねというときに伊東市に入ってもらおう。伊東市でやっている取組について知らない方が多いです。伊東市が一体どんなことを頑張っているかということ、発信はしているけどまだまだ届いてない人たちも多いと思います。伊東市の良さを知ることができれば、伊東に対する思い入れが変わってくると思います。まずつながる場が大切で、この未来ビジョン会議に参加させていただいてとても感謝しています。こういう思いを伝えられる場は皆さんの思いも知ることがで

きます。課題に対してつながりがあれば別の視点から解決方法を探すことができますし、手を組むこともできます。このようなこともより広い範囲でアプローチしていくと伊東市の魅力を伝えることができるのではないかと思います。

### 【市長】

参考になりました。私もずっと伊東にいます。例えば、毎日海を見ています。日の出よりも早く起きるので、1年中日の出を見ていますが特別に何か思うことはありません。しかし、サンライズビーチみたいな新しく名前をつけて、日の出を発信してみる。本来は味わえない魅力ですよ。日常になるとあんまり気づかなくなってしまう。

人工的ですが、グランイルミは毎年リニューアルをしています。国立公園内ですので規制が多いですが、企業努力をされています。規制が厳しいという声がありますが、県や国の法律等によるものですので、伊東市も協力する中で継続してもらいたいと思います。あれだけの規模はなかなかありませんので市民割も含めて、事業者にも協力してもらうことが必要になりますので、このような情報を、市民も含めて観光客や移住者に伝えていきたいと思います。

東京や横浜は確かにとても近い距離間ですので、お手軽に来れますよということを伝えていきたいと思います。次にF委員お願いします。

### 【F委員】

住んでから9年目に突入します。私自身も外から見ると魅力的な街だと感じています。私は海がない町の出身で少し車を走らせれば、海も山もあって、しかも青い海というところが魅力だなと思います。他の地域から友人や家族が来たときに、このロケーションだけでも喜んでもらえます。しかし、観光客の視点から生活者の視点に変えてみると、適切な表現が分かりませんが、少し足りない部分があるなと感じています。最初に伊東に来た時は、車を持ってなくて、仕事を終えた後に出かけるとスーパーはほとんど閉まっていて、コンビニに行きますし、車以外で出かけようと思うとバスが1時間に1本や2本しかなく、車社会が出来上がってしまっています。車がない方や運転し慣れてないと大変で、そういう方には不便に感じるところがあると思います。それから高校生と話をすると既に伊東市に対するイメージが出来上がってしまっていて、小・中学校から肯定的な意見を持つようなことができればいいなと思いますが、どんなことをすればいいかということとはなかなか思いつかないです。伊東市の歴史を勉強しながら、どのようにすれば伊東に人が呼べるだろうという総合的な探求を今取り入れています。成果がどれくらい出ているのか不明な部分があります。子どもたちが伊東の良さをどれくらい理解してくれたのかということも不明です。伊豆伊東高校が4月から開校して、伊東の子は全て伊豆伊東高校で見ようという覚悟でやりましょうと言われていますが、実際は、第1期生は定員割れをしまして、中学校別の人数を見ると、鉄道の駅に近い中学校は、市外に出てしまう子どもが多いのかなと思います。逆に、東伊豆・下田地域等から通ってくれる子どももいまして、理由を聞くと部活ということが多いです。伊豆伊東高校に呼び込むにも元を正すと伊東の人口が減ったり、学校に入ってくる生徒が減ったりということがあるので、どう打開すればいいのかということは、とても難しい問題だなと思います。一方、生徒を外に連れ出すと、よかったなと思ってくれるところもあります。授業でInstagramの運用もしていますが、教員が発信する

よりも若い世代が発信した方が慣れていているという部分もあるので、受けも反応も良いと思います。

小・中学生に高校のことを知ってもらうために、今年度に小学生を対象としたプログラミング教室をやりました。定員が30名でしたが、すぐに埋まりまして、アンケートでも反応が良かったです。課題も多かったですが来年度も実施してみようと思います。少しずつお互いが、地元で助け合いながらこんなこともできるよということを知ることが大事なのかなと思いました。高校生だったらこんなことできるんじゃないということがあれば、高校としてどんどんやっていきたいなと思いますので、逆にお知恵をお貸しいただけたら嬉しいです。

#### 【市長】

伊豆伊東高校の定員が割れたのはショックでした。皆さんにも知ってほしいのですが、5クラスと6クラスの違いは大変大きいです。教員の数にも影響してきます。ぜひ、お知り合いに伊豆伊東高校を売り込んでいただけたら助かります。

経験の中からお話いただきましたが、どうしても車社会です。だから公共交通を安く使えるようにするというのも必要ですし、車がない場合にどうするか、あるいは車を持っていただくために援助出来るかということも含めて考えたいと思います。

高校生になるともうイメージが出来上がっていると思います。観光特派員を経験した後にプレゼンを聞くと伊東をもっと良くしたいという気持ちになれたということをおっしゃっていますので、今後もビジネスマネジメント科とタイアップしたいと思っています。住民の方に色々とお話いただいて、魅力に気づいて、皆さんが持っている媒体で発信してもらいたいです。私は、ステイホームの時に、アナログですけど市民にハガキを10枚ずつ配って、市外の親戚や友人等にまた来られるようになったら来てねというメッセージをつけて、ハガキを送っていただく。そして、そのハガキを伊東市で使える割引券にして、みんなにもお客さんを運んでもらいたいなと考えました。それを今の時代に合ったものに変えていき、例えば高校生が卒業するときに、大学で知り合った友人を10人連れてきたら、何かインセンティブを付けるようなことをやりたいなと思っています。いろいろとまたご協力いただければと思います。

それでは、事務局からの説明をもって終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。

#### (5) 閉会

事務局から来年度の委員の委嘱について説明。

以 上